

# 非常時の受け入れ確認

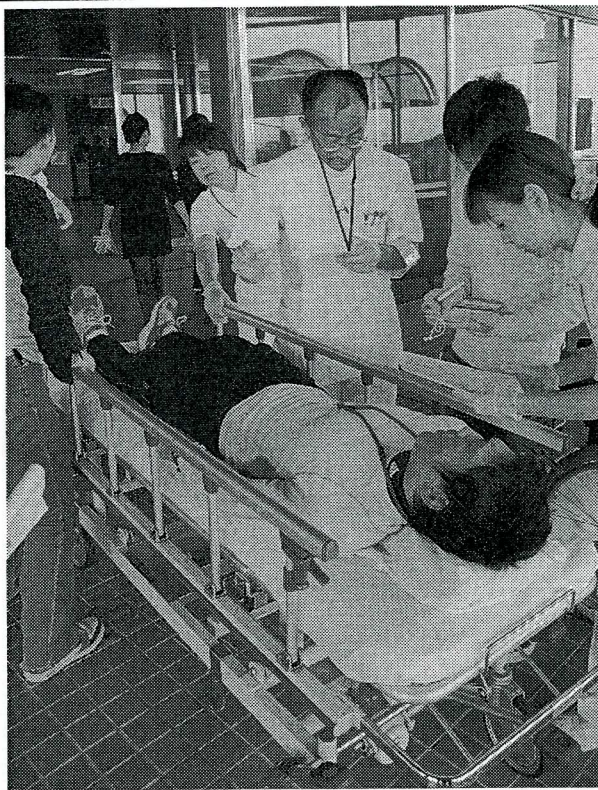
## 南和歌山 医療センター 大地震想定し訓練

東南海・南海地震を想定し、田辺市たきない町の南和歌山医療センターは16日、災害対応総合訓練を実施し、負傷者が大勢詰め掛ける非常時の病院の受け入れ態勢を確認した。

生、田辺市で震度6弱を観測し、発生後15分で津波が襲来したため多くの負傷者が出たと想定した。

訓練は、負傷の程度で治療の優先順位を決めるトリ

紀伊半島沖で午前9時、マグニチュード8の地震が発



訓練では負傷者が次々と運び込まれ、医師らが玄関でけがの程度を確認して病院内へ伝達した  
(16日、田辺市たきない町で)

関では医師がけがの程度を選別、適切な処置ができるよう引き継いだ。家族を捜す人も来院し、事務職員らが対応した。

参加者は万が一の事態に少しでも役立てようと、臨場感を持って各自の役割を務めた。

訓練実行委員長の川崎貞男・救命救急科医長(48)は「毎年訓練で反省点を振り返り、病院の災害対策マニュアルを改定している。万が一の場合には、住民の生命を守るという国立病院の責務を果たせるよう普段から意識を高めたい。また受け入れだけでなく、遠隔地の災害にチームを派遣する体制もより強化したい」と話した。

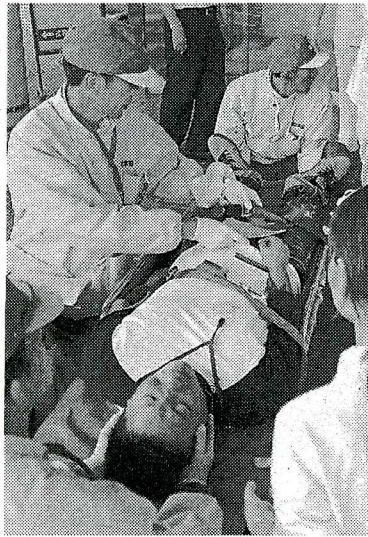
## 田辺で地震想定 災害訓練に200人

南和歌山医療センター

東南海・南海地震が起こったと想定して、南和歌山医療センター(田辺市たきない町)で16日、「災害対応総合訓練」があった。医療スタッフが近くの住民ら約200人が参加し、けが人の搬送、治療などを訓練した。

午前9時に紀伊半島沖で大地震が発生し、田辺市で震度6弱を観測し、津波が襲ったと想定。負傷者が大勢来ると見込み、優先順位をつけて治療する「トリアージ」を同センター正面玄関で実施した。医師らが患者役の人に症状の軽重に合わせた4種類の色の札をつけて回った。

医師が手いっぱいになり、搬送の道具が不足する様子を見た熊野高校看護科専攻科1年生の石川琴美さんは「こんなに現場が混乱すると思わな



患者役の人に症状の度合いを示す札をつける医師ら＝南和歌山医療センター

かった。実際にはボランティアがもつと必要なので住民に参加して欲しい」と話した。訓練実行委員長は川崎貞男・救命救急科医長は「院内での情報伝達など、反省点はたくさんある」とし、今回の問題点をふまえて災害対応マニュアルを改定するという。同センターは今後、災害時に近くの医療機関と協力する態勢を整える方針だ。(上田真美)

側1車線の見通しのよい直線道路。南へ向かう久喜さんの車が、道路を東へ横断していた西谷さんにぶつかったという。署は詳しい事故原因を調べている。